

5 多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくりの推進

(1) めざす授業像

集団における授業の工夫や合理的配慮の提供により、多様な学習の状況や興味・関心に柔軟に応じた、全ての子どもにとってわかりやすく楽しい授業

(2) 推進項目

① ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり

～通常の学級において、全ての児童生徒にとってわかりやすく、学びやすい授業～

【授業づくり】

- 具体的な言葉で、一つずつ指示を伝える。 ○具体物、写真、文字等で補い、分かりやすく情報を伝える。
- 1時間の授業のめあてと流れを明示する。 ○活動の終わりはどこかを具体的に伝え、見通しをもたせる。
- 予定を提示するなど見通しをもたせ、自主性を高める。
- スモールステップの課題を準備し、成功体験を積ませる。

【単元づくり】

- 子どもたちの興味・関心を活かした単元構成
 - ・子どもたちの実態把握のもと、子どもたちが自己決定したと感じることのできる単元構成にする。
 - ・各教科で学習した内容を取り入れたり、「自分だったら？」と課題を自分事につなげる問いを組み込んだりする。
 - ・子どもたちが生活や社会とのつながりを感じながら学べるよう、具体物や身体性を発揮できる活動を設定しておく。
- 「一人ひとりに合った支援」の充実
 - ・実態に応じてどのような支援が必要かを検討しておく。
 - ・多様な教材(教科書、絵本、デジタル教材、図鑑など)や学習方法(実験、グループディスカッション、プロジェクト型学習など)、子どもが自ら教材・方法・学習進度等を選択できる学習環境を構築する。

【教室環境の工夫】

- 片付け場所や道具の置き場所を分かりやすく示す。
- 場の構造化を図り、活動を分かりやすくする工夫をする。
- 視覚的な刺激を整理し、集中しやすい環境を整える。
- 教室内外の音が集中の妨げとならないよう配慮する。

【接し方の工夫】

- 子どもたちのよいところや強みをたくさん見つける。
- 子どもの意見や考えに対して肯定的な接し方(うなずき、繰り返し)を心がける。
- 教師(担任、授業者)が、一番身近なモデルになる。
- 「なぜ」の視点で、子どもの言動の背景を探る。

<基盤>お互いを認め合える学習集団作り・多様な学びを認める風土の醸成

② 一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の工夫

～子どもが自分に合った学び方を選択できる授業づくり～

子どもの「つまずき」を明らかにする	
①「つまずき」の背景を想像	・「ことば」としての理解と意味理解 ＝「知っている言葉」と「使える言葉」
②多角的な視点で教育的ニーズを把握	・子どもの言動から ・発達段階に応じて

学びのオプション(選択肢)を提示する～学習の個性化～	
①スモールステップによる学び	・達成感を味わえる課題設定
②学び方・進度の自己選択	・教材(紙と ICT)
③自分に合ったアウトプット	・形態(個別・ペア・グループ) ・思考のモデル(カード等)を提示 ・ホワイトボードや ICT の活用

参考資料

- ・「令和7年度指導の重点・主な施策～とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を～」
戸田市教育委員会（令和7年度）
- ・「子どもたちの『わかる』、『できる』を支えるユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援」
鳥取県教育委員会（令和6年2月）
- ・「しまね特別支援教育魅力化ビジョン」
島根県教育委員会（令和3年2月）